

## 線状降水帯による豪雨災害に伴う上空調査

令和7年8月7日～11日、鹿児島県内、熊本県内において線状降水帯による豪雨災害が発生し、8月10日、16日、防災ヘリ「はるかぜ」にて熊本県天草市において上空からの被災状況調査を実施し、発生メカニズム等の助言を頂き、首長への報告を行った。

**調査実施者：熊本大学 椋木教授**



### 【TEC-FORCEアドバイザーの見解】

- 土砂崩壊については、谷筋の両脇から立木が吸い込まれるように流れている状況である。
- 崩壊始点から終点（別図の「下流住居(想定)」までの勾配が概ね10度であり、その先（集落まで）が15度と緩勾配であることを事前に確認した上で現場に入った。  
崩落先端はヘリから見た状況ではフラットで流木が流されるにはエネルギーが足りなくて止まったと思われる。